

## 協働的な学び ～ 学び合いがより活発に ～

協働的な学びとは、子どもたち同士が話し合う中で結論を導き出し、課題を解決していく学習方法を言い、タブレット端末を使うことで、仲間と協力して考えをまとめたり表現したりすることが容易になっています。また、子どもたち同士で力を合わせたり地域と交流したりすることで、より興味と関心を持って学ぶ効果が生まれています。

### 子どもたち同士が教えあい学び合う

### 埴生小中一貫校小学3年生(国語)

提示された課題についてタブレット端末で調べ学習をし、自分の考えをまとめます。まとめた内容をもとにグループで意見交換します。その後、自身で気付いたことを振り返り、学びを確かなものにしていきます。



◀意見交換の様子

タブレットを使った授業は全部が楽しいです。本で調べるよりも多くのことが調べられるのがいいと思います。タブレットの使い方がわからないときは、まず自分で挑戦してみて、上手な友だちからコツを聞いています。



星野巨輝くん

### 表現力・発信力を磨く

### 竜王中学校3年生(総合学習)

「地域の活性化につながる企画や良さを発信しよう」をテーマに、学年が2つに分かれ「竜王地区の活性化プロジェクト」に取り組みました。

「プレゼン」班は、現地でインタビュー取材等を行い、地域の活性化策についてスライドを制作。10月17日、地域の人などを招いてプレゼンテーションをしました(写真右)。また、「地域CM作り」班は、竜王地区の魅力伝えるCMを制作し、文化祭で上映しました。



CM作りは音と画像を合わせるのが大変でした。他の班のデータが共有されるので、良い所や意見を取り入れて、納得した作品ができました！



岡崎景菜さん



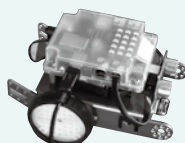
◀完成したCM

### 地域と交流しながら学ぶ

### 須恵小学校6年生(プログラミング)

小中学校で必修内容となったプログラミング学習。10月14日、須恵小学校では、小野田工業高等学校メカトロ部のみなさんの協力のもと、授業が行われました。授業では「mBot」と呼ばれるロボットを目的地まで動かすプログラミングに挑戦しました。mBotに進む方向や距離などのプログラムを入力し、その後、実際にmBotを動かしてみて、動きに誤りがないかを確認します。

専門的な知識を持つ高校生から教わることで、より興味や学びを深めることにつながっています。



▲ mBot



高校生からプログラミングを教わる小学生